

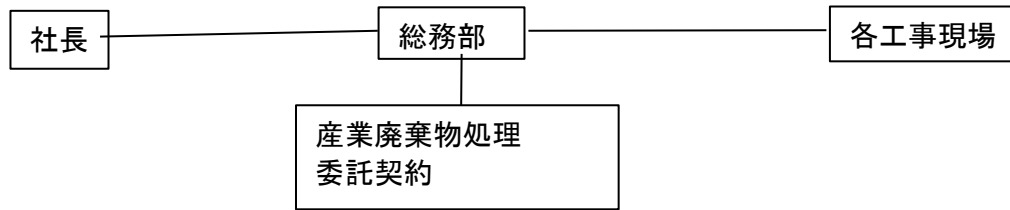
様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
令和7 年 6 月 3 日	
長野県知事 阿部守一 様	
提出者	
住 所 長野県 駒ヶ根市 赤穂9172	
氏 名 小澤建設株式会社	
代表取締役 福澤康男	
電話番号 (0265) 82-2171	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	小澤建設株式会社
事業場の所在地	長野県 駒ヶ根市 赤穂9172
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業 一般土木建築工事業
②事業の規模	完成工事高 8億円
③従業員数	26名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<div><div>土木・建築工事</div><div>着工</div><div>完成</div><div>分別</div><div><div>廃プラスチック</div><div>木くず</div><div>燃え殻</div><div>金属くず</div><div>混合廃棄物</div><div>ガラスくず及び陶磁器くず</div><div>紙くず</div><div>がれき類</div><div>汚泥</div></div><div><div>中間処理</div><div>再生利</div><div>中間処</div><div>再生利用</div></div><div><div>最終処分 (安定型、管理型)</div></div></div>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	排 出 量	1,048 t	589 t
	（これまでに実施した取組） がれき類は、土木、建築工事ともに全数量の中間処理、再資源化を実施。木くずの排出量は主に河川工事等の立木処理で全て中間処理、熱利用促進で排出抑制している。 廃プラは再生不能品(汚れ物)の排出量が横ばいで、主なところは安定型埋立となっている。 金属くずは、再資源化により排出抑制している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	排 出 量	900 t	500 t
	（今後実施する予定の取組） 建設系混合物は、分別が実施され再資源化が定着されているので、同様に推進する。 がれき類は、公共工事で補修、修繕工事が主であるが排出量は横ばいの予定であり、これまで同様に全数再資源化を行う。木くずについても同様に推進する。 廃プラスチックは、再資源化が容易になるよう現場で適宜分別を推進し、再資源化率を上げる。また排出抑制は再資源化に向けて分別を推進する。 資材高騰の折、再生資源を有効利用、大切にしてく。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 紙、金属、木くず、繊維くず、廃プラスチック、がれき類、ガラス陶磁器くずについては排出場所から再資源化に向けた作業が行われている。建設系混合廃棄物は、中間処理において分別(木くず・紙くず・廃プラ)が確実にされている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 中間処理を委託している場合は、処理状況の確認も行い適正な分別リサイクル、処分を推進し循環型社会の構築に努めるようこれまで同様に推進する。特に廃プラについては、排出及び分別を注視し抑制していくよう推進する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産 業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	全処理委託量	1048 t	589 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	1048 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	589 t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	全処理委託量	900 t	500 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	900 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	500 t
	(今後実施する予定の取組)		
	現状の処理委託を継続して、適切なリサイクル処理を実施する		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の種類		総排出量		自ら再生利用を行った（行う）量		自ら行う中間処理				自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量		処理の委託									
						自ら熱回収を行った（行う）量		自ら中間処理により減量した（する）量				全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熱回収業者への処理委託量		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	
		①		②＋⑧		⑤		⑦		③＋⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭	
実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画		
法 律	1 燃え殻																				
	2 汚泥																				
	3 廃油																				
	4 廃酸																				
	5 廃アルカリ																				
	6 廃プラスチック類	47.87	40.00									47.87	40.00			5.02					
政 令	1 紙くず	0.10	1.00									0.10	1.00			0.10					
	2 木くず	588.74	500.00									588.74	500.00						588.74	500.00	
	3 繊維くず																				
	4 動植物性残さ																				
	5 ゴムくず																				
	6 金属くず	2.3	3									2.3	3			2.3					
	7 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	2.5	3									2.5	3								
	8 鋳さい																				
	9 がれき類	1,048.38	900.00									1,048.38	900.00			1,048.38	900.00				
	10 家畜ふん尿																				
	11 家畜の死体																				
	12 動物系固形不要物																				
	13 ばいじん																				
	14 処分するために処理したもの																				
合 計		1,689.89	1,447.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1,689.89	1,447.00	0.00	0.00	1,055.80	900.00	0.00	0.00	588.74	500.00

※ 総排出量＝自ら再生利用を行った（行う）量＋自ら中間処理により減量した（する）量＋自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量＋全処理委託量

【記載方法】

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の左に前年度の実績（現状）を右に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入し、右欄にそれぞれの内訳を記載してください。
- 「自ら再生利用を行った（行う）量」の欄は、自ら直接再生利用した量と自ら中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分をした量を記載してください。